

# 厚生文教委員会報告書

令和7年2月10日

備前市議会議長 西 上 徳 一 殿

委員長 中 西 裕 康

令和7年2月10日に委員会を開催し、次のとおり議決したので議事録を添えて報告する。

## 記

案 件	調査結果	備 考
1 健康管理・子育て支援についての調査研究 ① 備前市第3次健康備前21、備前市食育推進計画、第2次備前市自殺対策計画について ② 第3期備前市子ども・子育て事業計画について	継続調査	—
2 病院事業についての調査研究 ① 経営状況について	継続調査	—
3 教育行政についての調査研究 ① 公共下水道未接続の教育施設について ② 施設の老朽化等について	継続調査	—

- 委員派遣（備前市立日生中学校）

## <報告事項>

- 令和7年2月備前市議会第1回定例会提出議案等について（各課）
- PFAS 搬出の進捗状況について（環境課）
- 高齢者ふれあい事業のアンケートについて（介護福祉課）
- 「私の人生ノート」について（介護福祉課）
- 令和6年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果概要について（小中一貫教育課）
- 令和7年度入園申込みについて（幼児教育課）
- 香登認定こども園について（幼児教育課）
- ALT について（教育政策課）

《 委員会記録目次 》

招集日時・出席委員等	1
開会	2
報告事項	2
閉会中の継続調査事件	14
1. 健康管理・子育て支援について	14
2. 病院事業について	19
3. 教育行政について	20
委員派遣	23
閉会	23

## 厚生文教委員会記録

招集日時	令和7年2月10日（月）		午前9時30分	
開議・閉議	午前9時30分	開会 ～	午後11時38分	閉会
場所・形態	委員会室	閉会中の開催		
出席委員	委員長	中西裕康	副委員長	青山孝樹
	委員	土器 豊		守井秀龍
		立川 茂		奥道光人
		草加忠弘		
欠席委員		藪内 靖		
遅参委員		なし		
早退委員		なし		
列席者等	議長	西上徳一		
傍聴者	議員	なし		
	報道関係	あり		
	一般傍聴	なし		
説明員	市民生活部長	藤森仁美	市民協働課長	木和田純一
	環境課長	岡村 巧		
	保健福祉部長 兼福祉事務所長	久保山仁也	保健課長	高橋多恵子
	介護福祉課長	梶藤さつき	こどもまんなか課長	竹林伊久磨
	総合教育部長	畑下昌代	教育総務課長	杉田和也
	小中一貫教育課長	谷口健一	幼児教育課長	文田栄美
	教育政策課長	春森弘晃		
	病院総括事務長	藤澤昌紀	備前病院事務長	小野田一義
	日生病院事務長	隅谷淳就	備前さつき苑事務長	山口久美子
審査記録	次のとおり			

## 午前9時30分 開会

○中西委員長 皆さん、おはようございます。

ただいまの御出席は7名でございます。定足数に達しておりますので、これより厚生文教委員会を開会いたします。

本日は、各課からの報告事項、所管事務調査を行います。

報告事項については、次期定例会に関わる予算や条例を別紙のとおり御報告いただいております。本件については、個々に御報告いただくことはいたしません、どうしても事前に質問をしたい方はお申出ください。

### \*\*\*\*\* 報告事項 \*\*\*\*\*

それでは、レジュメに従って各課より順次御報告をお願いします。

なお、報告事項ごとに質問を行い、質問が終了した案件の説明員の方におかれましてはその都度御退室いただいて結構でございます。

なお、レジュメに記載のない報告事項がございましたら、順次挙手の上、御報告をお願いいたします。

まずは、次期定例会への議案につきまして、どうしても質問をされたい方がいらっしゃれば挙手を願います。

○奥道委員 こどもまんなか課の当初予算の無痛分娩費用の助成事業について、不妊治療とか、あるいはそういった出産の支援について今回これが取り上げられていますけども、ほかにもたしか備前市いっぱい出産関係のがあったと思うんですけど、今回なぜこれになったのかというようなこと、あるいは、備前市は今どれだけのことをずっとしていますか。

○竹林こどもまんなか課長 既にやっているのは先ほど奥道委員もおっしゃられたように不妊治療の助成、出産に直接関わるものとしてはそれぐらいじゃないかなと思っております。なぜこのたび無痛分娩の助成かというようなお話でございましたが、たしか東京都だったかも同じようなお話が報道等ではございました。先進事例を参考に、備前市でもそういったところを今までしてなかった部分についてやっぺいこうかと、無痛分娩というところで産まれる方の負担を少しでも軽減して2人目なり3人目も、じゃ、産んでみようかというようなことになればいいなというようなところで検討したものでございます。

○奥道委員 そういうことでしたら、例えば2人目でも3人目でも対象になるというようなことで考えていいわけですね。

○竹林こどもまんなか課長 特別1人目だけ対象というようなことでは考えておりません。

○高橋保健課長 保健課です。皆様にお配りしております議案の資料に訂正がございますので、御確認ください。

保健課、上から3行目、4行目に新規事業を2点載せておりますが、一番右端、いずれも単位が間違っております。3行目は34万4,500円、その下は100万円と円で記入しております。

すので、金額が大幅に変わっております。訂正よろしく申し上げます。

○中西委員長 ほかにはよろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○岡村環境課長 環境課より使用済み活性炭の保管に係る対応状況について御報告いたします。

令和7年2月の下旬から搬出作業が再開されます。2月及び3月の搬出作業は、月1回の予定と岡山県からお聞きをしております。

○中西委員長 質疑がある方の発言を許可いたします。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○梶藤介護福祉課長 高齢者ふれあい事業のアンケートについて御報告いたします。

資料をお手元にお配りしておりますので、御覧ください。

初めに、訂正をお願いいたします。

今後のふれあい事業についてどう思いますかという問いの中の割合をパーセンテージ載せておりますが、こちらを訂正させてください。

現状のままでよいの割合を今51.7としておりますところを52.8、51.7を52.8です。それから、右端の見直しが必要の割合を現在36.0と記載しておりますが37.1、36.0を37.1です。それから、一番最後の問いのところの基準年齢は75歳ですがどう思いますかのところですけど、このままでよいの割合を81.3としておりますが、こちらを82.5、81.3を82.5と訂正をお願いいたします。

それでは、資料に沿って説明をさせていただきます。

このたび、高齢者ふれあい事業の見直しに係る検討のためにアンケートを実施しております。ふれあい事業の補助申請をした地区には交付決定を送る際にアンケートを同封し、回答についての御協力をいただいております。また、実施がなかった地区につきましては、郵送で依頼をして回答いただいております。先週の金曜日、2月7日時点で89地区から御回答いただきまして、回収率は今87%です。現時点での集計ではございますが、約9割近くの地区から回答いただきましたので、傾向としては見えてきたというところでこのたび御報告をさせていただきます。

アンケートの内容としましては、まず今後の事業についてどう思いますかということで、現状のままでよいが52.8%、必要ないが10.1%、見直しが必要が37.1%というような回答でした。次に、それぞれ現状のままでよい、必要ない、見直しが必要について、それぞれそう思う理由というのをお聞きしております。現状のままでよいの理由として一番に多いのは、町内会や地域の方々の交流の機会になっているというのが34件ありました。その後、地域住民の集まり触れ合う場が必要だから、この事業を楽しみにされている方がいる、地域に定着しているというような理由が続いております。必要ないという場合につきましては、役員の高齢化で企画や準備が大変ということが一番多く回答がありました。見直しが必要というところでの理由としましては、記念品の配布のみの事業も対象とするというところが22件ということで、ほかの選択

肢に比べて最も多く回答があったということになりました。

それから、一番最後が現在75歳以上を対象としておりますが、この基準年齢についてのことを尋ねておりますが、このままでよいというのが82.5%、ほぼ皆さんこのままでよいというような御回答でした。

現時点での集計ではございますが、担当としましてはこの事業につきましてはやはり触れ合いの場であるとか定着しているとかというような御回答をいただいているところもあります。ぜひ継続したいとは考えておりますが、コロナ禍以降、令和2年から5年度につきましては記念品の配布のみも対象とした経緯がございました。地区からアンケートにもありますとおり、また口々にといいますか、御意見をいただいていたところですが、私どもも見直しが必要な時期であるというふうな認識の中、今回のアンケート調査に至ったわけではございますが、見直しについては記念品の配布のみも対象とするというあたりの御希望は多数あるというところで、来年度以降こちらでも対象とするような方向で検討をしなければいけないなどは今考えておるところです。

今後につきましては、アンケートの最終を取りまとめていきますけども、事業の制度設計を検討していくというところですが、また、委員会でも御報告したいと思っておりますので、今後またよろしく願いいたします。

続きましてもう一点、報告事項の中に上げてなかったんですけども、介護福祉課からもう一点報告させていただきます。

皆様のお手元に、私の人生ノートをお配りさせていただきました。8月の定例会の一般質問にも出ておまして、エンディングノートについて今作成中であると回答をさせていただいたところですが、これが12月末に備前市のものとして作成をいたしました。エンディングノートという言葉について医師会等とかにも報告をしながら検討した結果、少し名称を変えてはどうかというような御意見もいただきまして、私の人生ノートという形で備前市の場合は作らせていただいております。こちらがいわゆるACP、アドバンス・ケア・プランニングという考え方の基に人生会議といいますけども、市民の皆さんに17ページのところにACPのことを書いておりますので参考にしていただけたらと思っておりますが、もしものときに備えて信頼できる家族や友人、その方たちと一緒に思いを共有しておくというところでぜひ進めていきたいと、普及をしていきたいと思っております。

2月2日にこのたびACPに関する市民対象の講演会を行いましたところ、大変反響が大きくて申込みの定員よりも大分多くの申込みがありまして、皆さん興味を持たれていると感じております。

ただ、やはり人生会議につきましては、まだ知らない方が多かったりするようなアンケート結果もございましたので、今後進めていきたいと思っております。

委員の皆様方も参考にしていただいて、ぜひ普及に御協力いただけたらと思っております。

**○守井委員** 私の人生ノートというのは、各家へ何冊か送られるんですか。どういう形で配布予

定しているんですか。

**○梶藤介護福祉課長** 人生ノート普及も含めてと思っておりますので、できるだけ説明をした形でと思っております。現在のところは、先ほど申し上げました講演会でお配りをしました。今地区の民生委員の協議会が始まっております。そちらへも配布をさせていただくと。それから、市内で展開しておりますサロンとか包括で関わる高齢者の方々には説明をしてお渡ししております。この間の講演会の案内でもお知らせをしておりましたが、必要な方は包括にありますということでお知らせをしておりますので、窓口に取りに来ていただいた方にお配りをしているという形です。各相談業務、それから医療機関、薬局には説明をしておかせていただいております。医師会にも報告をいたしまして、御協力いただける先生方にぜひ説明もお願いしたいということでお願いをしているところです。

**○守井委員** 印刷はどのくらいされているんですか。

**○梶藤介護福祉課長** 1,000部しておりますので、7年度にかけて配布を考えております。

**○守井委員** 全然足りないわな、希望する人がもしおられたら。例えば3万人として、高齢者が3割なんで、3割というたら9,000人になるじゃないですか。だから、しっかり配布をお願いして無料でというようなことで、どんどん交付をしていただきたいなと思う。少し見てみたら、意味あるような感じで思いましたんで、配布をぜひお願いしたいなと思います、しっかり。各支所なんかにも置いて自由に持って帰られるようにしていただいたらいいんじゃないかと。

**○梶藤介護福祉課長** 現在1,000部というところで、先ほど申し上げましたように一応説明だけはさせていただこうとは思っておりますので、御自由のところは今考えてないんですけど、来年度につきましても作成を予定しておりますので随時そういった形で普及をしていきたいと思っております。

**○守井委員** ぜひ普及するようにお願いいたします。

それからもう一点、高齢者ふれあい事業ですけど、ぜひとも引き続いてお願いしたいなと思いますし、内容を充実させていただくようにそれぞれ指導するなり皆さん方の御意見をお聞きするなりしてなくならないように、1人当たりの単価もだんだん下がってはきているんですけども、あまり下がらないように、期待している地区もありますのでぜひ推進していただきたいと思いますが、どんなですか。

**○梶藤介護福祉課長** いろんな御意見を地域の方からお伺いしている中では、やはりアンケートを取ってみて再確認はしたところですけど、定着しているような地区が多数ございまして楽しみにしておられる方も多いためお聞きしております。中には、やはり役員の高齢化等で大変な地区もあるとお聞きしておりますので、実施ができない地区に関しては私どもできる方法を一緒に考えていくということで、区長さんたちにも話をさせていただこうと思っておりますので、事業については継続をしていきたいと思っております。

**○青山副委員長** 以前は敬老事業のような形で高齢者の方のみを対象とした事業という捉え方を

されているところが多かったんじゃないかなと思うんですけど、この名称というのはこれ以前と変わってないんでしょうか。

○梶藤介護福祉課長 名称は高齢者ふれあい事業ということで、以前から同じような名称の事業でございます。対象につきましても、敬老会の流れでこういった形になっているということだと思うんですけども、高齢者だけじゃなく近隣住民との触れ合いのための事業という認識でお願いをしております。

○青山副委員長 本年度につきましては、そういう文書みたいなものもいただいて、それで認識を改めるようなことから始めたんですけど、まだまだ要するに高齢者の方にお金が出ているんで高齢者の方を対象にすればいいんじゃないかという意見も出ましたし、それからその事業については今までとも継続してやるという考えで、それを触れ合いなんで子供たちとか、それから家族の触れ合いの場にして、その敬老の方はもちろん中心にはなるんですけど、いただいたお金を有効に使おうという話をしてやっとまとまったような、私のところなんかそうなんですけど、もう少しそういう目的とか方法を周知していただけたらと思うんですけど。

○梶藤介護福祉課長 毎年、年度初めの自治会の連絡協議会等で説明をさせていただいているところです。出ていただいた総区長さんといいますか、代表の方にお話をして地域で文書等の配布のときに説明をしていただくような仕組みではあるんですけども、実施について分からないとか趣旨についての問合せについては随時説明をさせていただいておりますので、そういった地区がありましたら具体的に個別にはお話をさせていただくような形で、できるだけ趣旨が分かっていたるように工夫はしていきたいと思っております。

○青山副委員長 その一つの方法として、例えばホームページでありますとか、回覧のチラシのようなものを作っていただいて、それでどの地区、どういう使われ方してもこうなんだということが分かるようにしたほうがいいんじゃないかな。といいますのが、やっぱり個別のところでは総区長さんが自治会のあれに出て伝達されると思うんですけど、うまく伝わっていないということでの混乱があったようにも思うんですけど、他の地区がどうか分かりませんが、その辺のところもちょっと考えていただけたらと思います。

○梶藤介護福祉課長 ホームページにつきましては、今年度少し充実をさせていただいているところなんですけども、どうしても伝えたいことがたくさんあって分かりづらくなっているかもしれないので、そういったところの簡素化だったり考えたいと思います。あとチラシにつきましては、1枚物では区長さんにお渡しするものは作ってはいるんですけども、地域の中で分かる回覧ということですが、地域住民の方にも分かりやすいという意味だと捉えましたので、そのあたりは少し検討をさせていただきたいと思います。

○青山副委員長 本当にとってもいい事業で継続していただきたいと思うので、ぜひその辺の工夫をしていただけたらと思います。

○立川委員 先ほど出ておりました事業のアンケートということで、2点ほどお尋ねしたいので

すけど、諸物価高騰の折ながら、この補助金だけがどんどんどんどん下がっております。その辺のアンケートはされてなかったんですか。なぜ外されたんですか。

**○梶藤介護福祉課長** このたびは、事業自体の今後の必要であるかないかというあたりも見たいというのが一番の目的ではございました。アンケートの中に、その他自由に意見を書いていただくようなスペースは設けておりましたので、そちらのほうには金額についての御要望は書いていただいているところではありましたので、金額についてはやはり今以前よりも下がってきていることに対しての御不満ももちろんありました。高齢者数が増えてきておりますのはどこもだと思っておりますけども、それに伴って補助金を上げていくというのが、なかなかそうなるのかなり多額な補助金になってくるという認識です。どこの市町村にも今尋ねたり問合せをしているところがございますが、備前市の今までの多分補助金が少し他市に比べてだんだん下がってきているんですけども割と高額な補助金だったというところも思っておりますので、低いところであれば1人当たり900円というようなところ、それから高いところで大体2,000円というところで、備前市も今年度1,970円という金額で割り戻すのでちょっと中途半端な金額ではございましたが、ほかの市と比べて遜色ないとは捉えております。予算との絡みもありまして現状で、もしくは高齢者数の増加によって少し軽減される可能性もあるというところがございます。

**○立川委員** クエスチョンの中になぜ入れなかったのかなという思いでお尋ねをしたんですけど、理由は今おっしゃったように分かるんですけど、活動している現場とすればさっき言いました諸物価はどんどん上がっております。ジュース1杯昔は100円で買っていたのが今150円出ています。というような状況の中で、そういったお声を聞くつもりはなかったのかなということで、クエスチョンになぜ入れられなかったのかお尋ねをしとるんですが。

**○梶藤介護福祉課長** 今回は金額ではなくて事業についての意向をお聞きするというところで、事業に対して現状のままでよいか、それから必要ないか、それから見直しが必要なのかというところに絞ってアンケートをさせていただきました。

**○立川委員** そういった形で絞られたということなんですけど、これお願いなんですけど、事業というのやっぱり予算が伴いますので、次回アンケート取るときには必ずお願いしたいなと思います。それと今回名簿、個人情報の絡みでお出しできませんと、開催者で調べるなり何なりしてやってくださいということでの混乱あったと思いますが、それについてのアンケートも何か外されたんですか。

**○梶藤介護福祉課長** アンケートの趣旨は、先ほど申し上げたとおりでございます。名簿につきましては、先ほども言いましたように自由記載欄の中にはそういった御意見もいただいているところです。開催につきましては、今年度初めて名簿がないところでの開催とはなりましたが、各地区工夫をしていただいたり、お問合せがあれば私どもも一緒に考えさせていただいたりということで開催ができたものと思っております。今後その名簿について、収集が大変だったという御意見ももちろんお伺いをしているので、ほかの方法で何かできることはないかというところが今

他市の状況であったり、それから法律の関係であったりを研究しているところですので、来年度について何かお示しができるものがあればいいなと今検討しているところでございます。

○立川委員 アンケートの集計のその他、課長おっしゃったように自由記入欄、非常に大事なことが入っていると思いますので、今後このような集計を出されるのであれば、もしよろしければ自由記入欄、もっとお金上げていただけませんかとか、名簿何とかありませんかとか、そんなのも列記して御報告いただけたらありがたいと思うんですけど、どうでしょうか。

○梶藤介護福祉課長 またそちらもお示しできるようにしたいと思います。

○立川委員 この人生ノートですけど、対応として先ほどお話も出ましたけど、一番気になるのが独居の方の記入です。独居、おひとり住まい、高齢者でおひとり住まい、一番分かりやすい例ですけど、そういったところへ届かないと、例えば民生委員さんが持って回るんですよとか、漏れないようにその辺の独居の対応はどう考えておられるのでしょうか。

○梶藤介護福祉課長 日常に行っている相談業務の中では、独居の方につきましても職員から説明をして配布するというような流れはしていこうと思っております。あとケアマネジャーさんであるとか関係の職種の方には、説明をした上でお配りをしていただこうと思っております。高齢者の方の全数分が先ほども今1,000部というところですので、今後部数を増やしながら手元にお届けできる方を増やしていくということと想っておりますので、高齢者の独居の方に特化した配布の仕方というのは今までできておりませんが、今後関係の職種の方と協議をしながら進めていくところかなと思っております。

○立川委員 これは大変気になるところで、おっしゃるとおりケアマネとか訪看で関わりのある人は、独居の方でもお配りするチャンスは出てくるんですが、それ以外のところでは、何か方法を考えていただいて、まず当面今民生委員さんが聞き取りされておられるようなところ、関わりがあるところへお届けできるような方法を考えていただきたいと思っております。

○中西委員長 ほかにございますか。よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○谷口小中一貫教育課長 令和6年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果の概要について報告させていただけたらと思います。

お手元の資料を御覧ください。

この調査は国の悉皆調査でございます、小学校5年生と中学校2年生が対象となっております。

2番の(1)番、体力合計点は、小学校5年生においては男女ともに、中学校2年生においては男子で全国平均を上回っており、中学校2年生の女子のほうは下回っております。

次のページを御覧ください。

各種目の平均値では、小学校では男女ともに上体起こし、反復横跳び、20メートルシャトルラン、50メートル走、立ち幅跳び、ソフトボール投げで全国平均値を上回り、長座体前屈で全

国平均値を下回っていました。また、女子につきましては、握力のほうも下回っておりました。

中学校ですが、中学校の男子では握力、上体起こし、反復横跳び、50メートル走、立ち幅跳び、ボール投げで全国平均値を上回っており、長座体前屈、20メートルシャトルランで全国平均値を下回っておりました。女子では、全ての種目において全国平均値を下回っておりました。

次のページを御覧ください。

(3) 番、運動習慣との関連についてというところです。

ここで申し訳ございません、資料の訂正をさせていただきます。

小学校、中学校の数値が書いた下のところに、四角囲みで1週間の運動時間についてというところで白丸と黒丸で記させていただいたところがございます。この白丸の上から2つ目のもの、これ申し訳ございません、全て削除を願います。黒丸の上側のほうで、こちらの文言が少し変わってきます。次のような形になります。小学校では男女ともというところを冒頭部分変更させていただきます。

この(3)番のところですが、児童・生徒質問紙調査にある体育の授業以外の運動やスポーツの時間についての結果をまとめた表となっております。

御覧のとおり、小学校では男女ともに平日の運動時間数の平均値が全国平均値を上回っておりましたが、週末については小学校の男女ともに下回っておりました。

中学校では、男女ともに平日及び休日の運動時間数の平均値が全国平均値を下回っておりました。この調査項目から、運動習慣の定着が課題の一つであると捉えております。

今後は、学校とも本調査内容を共有いたしまして各校の課題改善に向けて体育の授業改善を進めてまいるとともに、スポーツ行事の在り方等の見直し、家庭との連携を基に望ましい運動習慣の定着につなげてまいれたらと考えております。

○青山副委員長 国の調査ということなんですけど、市で独自に何か調査されていますか。

○谷口小中一貫教育課長 市で独自のものは、特にはいたしておりません。

○青山副委員長 それぞれの県であるとか、あるいは市町で環境が随分違うと思うんです。できれば、市で年度ごとの統計を比較できるようなものとか、原因の一つである学校以外での運動に触れる機会、例えば施設であるとか、あるいはスポーツクラブのような運動を提供しているようなところとの関係がどうかとかということが分かるような、そういう市独自の調査ができないものかと思うんですけど。

○谷口小中一貫教育課長 ほかの課とも場合によっては共有しながら、どういうことで子供たちの運動習慣が定着できるのかというところを少し考えてまいれたらなと思います。

○中西委員長 ほかにはございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○文田幼児教育課長 令和7年度の入園申込みについては、1次募集を11月7日から11月29日、2次募集を12月2日から1月24日まで行いました。1次の申込みの申請者が588

人、2次の申込者は6人となっております。合計594名です。現在1次での申込者について、全員入園予定で待機児童は発生しない予定です。今後2次での申込者の入園を含めた保育教諭等の配置を調整していくようになりますが、2次募集での申込者を含めても待機児童、保留児童の発生はないことを見込んでおります。

次に、香登認定こども園について御報告いたします。

12月の厚生文教委員会以降の状況について御報告いたします。

12月に行いました地区への説明会におきまして、議事録を公開すること、それから関係者による審議会などを設置し協議することが確認されました。これを受けまして、議事録につきましては香登地区協議会会長を通じまして配布いたしております。

また、会議体としましてこども園、小学校の学校評議員や民生委員、それからこども園の保護者会会長、小学校のPTA会長、また幼児クラブの会長、それから香登協議会会長、大内地区会の代表によります検討会議を1月26日に市役所で開催いたしました。この検討会議では12月の地区の説明会に来られていない方が多かったため、地区の説明会と同様の説明を行い情報共有しております。今後は、年度内にはもう一度開催し、継続して協議をする場を持っていきたいと考えております。

○**守井委員** 地元の方々としっかり協議やりながらコンセンサスを得られるように、ぜひよろしくお願ひしたいなと思います。

○**文田幼児教育課長** 検討会議を継続して行いまして、地域の方の不信感を払拭していきたいと考えております。

○**立川委員** 地域の話聞いていただけるということで、議事録も作成して配布したということなのですが、委員会へ議事録を出すことは可能ですか。

○**文田幼児教育課長** 香登地区協議会を通じまして、地域の方へは随時回覧が行われているところです。同様のものを委員会に配布することは大丈夫だと思うんですけども、区会にもう一度確認させていただいてからにしたいと思います。

○**立川委員** 確認というよりも委員会にも御報告いただけて、回覧せよということではないんで委員会に提出いただいて情報共有できたらいいのかなと思ってお話をさせていただきました。できる限り委員会へも出していただけたらと思います。

○**青山副委員長** 自治会の26日の検討会議なんですけど、何名の方が参加されたんでしょう。

○**文田幼児教育課長** 御案内したのは12名なんですけれども、どうしても都合の合わない方がいらしたので全員で10名の参加となっております。

○**青山副委員長** 今回の2月定例会提出の予定議案の中に香登小学校のプール解体工事委託料というのが出ているんですけど、以前の12月の会議のときにもプールを残してほしいという意見も出ていたと思うんですけど、その辺の調整が行われてここに出とんどでしょうか。

○**杉田教育総務課長** 設備の老朽化が進んでいることに加えまして漏水により使用に耐えない状

態であることから解体についての設計を委託するものとなっております。

○青山副委員長 じゃ、直接関連していることはないかと捉えたらよろしいですか。

○杉田教育総務課長 お見込みのとおりでございます。

○守井委員 解体の設計予算が上がるといことですのでけれども、学校の状況とか、学校あるいはPTAに対してその情報をちゃんと提供して一応解体の設計をやるということの事業を認識していただいているかどうかということを広報はできていますか。

○杉田教育総務課長 小学校にお邪魔させていただきまして香登小学校のプール解体工事について校長先生と話をさせていただいて、おおむねその方向でということに対処しております。

○中西委員長 ほかにはございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○春森教育政策課長 ALT事業について報告させていただきます。

この2月7日に市長がフィリピンのコルドバ町に訪問いたしまして、協定を締結させていただいております。今回のこの協定につきましては、自治体同士の交流に基づいてあっせんという形で向こうから人を推薦していただいてALTとして来ていただくと、会計年度任用職員として来ていただく形のイメージとして進めておるものでございます。想定としては市長からは、最近の近隣の情報であれば奈義町の情報を見たりして各学年に1人ずつというような形の想定で要望をコルドバ町には、協定自体を議会議決する前後から要求させていただいておったんですが、まだ現時点で昨日2月7日に協定を結んだところでございますので、まだ現状向こうから何人のあっせんがあるかというのは確認取れておりません。そういう形で、予算につきましては市長から各学年に1人という想定の下に予算要求も進める形でしておりますが、そういった状況になっております。

また、それに伴いまして、コルドバ町がたくさんのあっせんをするに当たりまして向こうの現地学校としてあるアチーブゴールさんが提携しています専門学校がございまして、そちらに講師が大体400人から500人いるとお聞きしておりますので、そういったところからの派遣も踏まえた形で備前市も先日そこへアチーブゴールさんと包括連携協定を結ばせていただき、コルドバ町も今回の訪問を受けた形でコルドバ町とアチーブゴールさんも協定を結ぶだろうという話をお聞きしとります。実際結んだかどうかは、この後確認させていただく形になりますが、そういった形でたくさんのALTというか、国際交流としてたくさんの外国の英語ができる補助であったり、実際の講師をしたりとかということができるとお聞きしたいと思っております。

○奥道委員 講師の学校ですか、何という学校というか、そこを私よう聞き取れなかったんですが、もう一度お願いできますか。

○春森教育政策課長 SMEAGと書いた形で専門学校講師をされております。そちらがたくさんの例えばオンラインの英語授業をしたりとか、よくあるフィリピン留学といった形でフィリピンに行ってマンツーマンで教えていただくことができる学校を経営されている学校を持たれてい

るという形になります。そういった専門的な学校、セブ島でも最大級の学校、セブ州でも最大級の学校を持たれておるところがコルドバさんとそういった連携を結んだ形であっせんされた形の方を派遣いただく形で検討しております。

○**守井委員** 多くのALTを招聘しようということですが、これも相手がおられるということで相手の都合も明らかにある、具体的には明らかになってないということで、その結果次第によっては多くなるか、どのくらいになるかというのは相手次第という形になりかねないという状況にあると理解しとっていいでしょうか。

○**春森教育政策課長** こちらとしては従前11月段階、12月段階からも数多くの市長の要望として的人数をお伝えしておりますが、実際今協定を結んだばかりでございますのでその内容とか、どういった形で契約できるかとかが今後まだ最終調整というのは進めていく部分があると思っているのは認識としてはございます。あくまでも、一般的な形の想定としての予算として様々な予算要求はさせていただいております。

ただ、実際としてはこの後協定締結後に進んでいく形になりますので、御理解いただけたらと思います。

○**青山副委員長** 人数もかなり多くて子供たちがたくさん触れられるという配慮がと思うんですけど、昨日の議会報告会の中でも質問の中に英語がしゃべれたら誰でもいいんじゃないかと、やはりきちとした標準的な英語がしゃべれる人材が必要ではないか、特に最初に英語に触れる子供たちについては大事なんだと、そういう質問もありました。先ほど聞いていますと、そういう養成学校にもう相手任せのような形で派遣していただくような捉え方なんですけど、こちらで何か要望とか、あるいは面接とかされるようなことはありますか。

○**春森教育政策課長** 一般的にこういった形のあっせんに来られる場合につきましては、きちんと最終的に来られたときに面接する形になっておりますので、そういった面接の形は実施する形で今検討しております。

○**青山副委員長** 来られたときに面接ということなんですけど、どういう人が来られるんか、もし面接で不具合だなという場合には替えていただくことは可能なんですか。

○**春森教育政策課長** 今回あっせんのでやるのが初めてでございますので、どういった形になるかというのは。

○**青山副委員長** 危惧するのが、最初オンラインでのやり取りで、こちらから例えば教育委員会として向こうの現場を確認されてないとか、それから向こうからあっせんされてきた、その時点での面接ということで、その辺でどうかなという不安があるんですけど、もうちょっとこちらから向こうの体制、どういう学校でどういうことがなされているのかということを現場で確認されるか、あるいは面接をした中で替えていただくようなこともできるのかとか、そういったようなことを詰めていただきたいんですけど。

○**春森教育政策課長** あっせんに関する内容が来ましたら、協議してまいりたいと思います。

○青山副委員長 この新学期、令和7年度から始められるということになりますと、もう急ぎ行わないといけないと思いますので、その辺の検討早急にお願いしたいと思います。

○春森教育政策課長 いろいろ検討してまいりたい、前向きに進めてまいりたいと思います。

○立川委員 各学年に1人ずつあっせんして取るんだと、会計年度任用職員の身分で取るんだということになりますと、ある一定のスキルも必要なのかなど。それから、面接というお話もございましたが、誰がどうやってどういう面接をされるんだろうか、そのノウハウはあるんだろうか、大変危惧をいたしておるところでございます。さっき青山委員がおっしゃったように、スタンダードなイングリッシュというようなお話も出ていました。そういう判断基準は、今の教育政策課はお持ちなんですか。

○春森教育政策課長 こちらのほうは向こうの教員免許を持っている方であったり、向こうで日本というTOEFLとか、そういった形の資格を持っている方というのは基本的な前提条件になりますので、そういった方々が来られる予定になっております。基本的なものとしての特に言われる別の方法の外国から来られるのにJETプログラムというのがあるんですが、JETプログラムにつきましては教員免許とかが必須ではございません。そういった方々とは違って、今回のあっせんに基づくものというのは一定のスキルレベルがある方をこちらに来ていただく形になりますので、その辺については大丈夫かなと思っております。

○立川委員 そういったお話になるんでしょうけど、そういう方たちを面接する面接官のスキルはどうなんですかと。もうはなから資格もあるしフリーパスですよというスタンスなのか、やはり会計年度任用職員ということで備前市の職員として契約するわけですから、そっちのほうも併せてノウハウがお持ちなんですかということでお尋ねをしました。

○春森教育政策課長 教育委員会におきましても、今現在英語教育グループのほうに専門的な先生方がおったり講師の方がALT経験者とかがおりますので、そういった方々による面接ができるとしております。

○立川委員 とてもその辺を心配しております。それから、身分的には就労ビザで入ってこられるんですよね、あっせんということは。それもクリアできるんでしょうか。

○春森教育政策課長 ビザを取れないと日本に入れませんので、そういった形で就労ビザというか、基本的には教育というビザで入ってくる形になります。就労という形ではなく、教育というビザで入ってくるのが想定されております。こども園につきましては、教育を取るか、人文というのがあったりするんですが、そういったほうになる可能性がございますが、基本的にはそういった免許がないと学校で授業することはできませんし学校で就労することはできないので、そういった免許の方が入ってくるという形になります。

○立川委員 今おっしゃったように教育ビザ、何年になりますか。

○春森教育政策課長 3年ぐらいだったと思っております。

○立川委員 行政がやっておられるので、そういったところで強制送還、国外撤去というような

ところがないように、大変気にはなりますので、ビザの関係もしっかりと、あっせんだから大丈夫だというのは今入管ではしないらしいので、その辺も気になりますので、しっかりそこら辺もアプローチしていただいて取り組んでいただきたいと思います。

○中西委員長 その学校名についてはきっちり活字で起こして委員に配っていただけますか。あっせんというのも初めて今日聞きましたので、これまでは直接市がやり取りをするということでしたので、大変私はびっくりしました。

ほかにはよろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

なければ、以上で報告事項を終わります。

説明員入替えのため、暫時休憩いたします。

午前10時32分 休憩

午前10時45分 再開

○中西委員長 休憩前に引き続き委員会を再開いたします。

\*\*\*\*\* 所管事務調査 \*\*\*\*\*

これより所管事務調査を行います。

健康管理、子育て支援について調査研究ということで、前回の委員会で御報告のあった保健課、こどもまんなか課が現在策定に向け調整中の各種計画について本日改めて所管事務調査としております。1、2、それぞれ委員長より事前通告の一括質問、一括答弁以降他の委員の質疑となりますので、よろしく願いいたします。

それでは、質疑をしますので委員長交代します。

〔委員長交代〕

○青山副委員長 委員長質疑のため代行いたしますので、よろしく願いいたします。

○中西委員長 それでは、備前市第3次健康びぜん21、備前市食育推進計画、第2次備前市自殺対策計画について5点お尋ねをさせていただきます。

まず、2ページ下部の表に備前市健康づくり推進条例を追加できないかどうか、お尋ねさせていただきます。

この条例は、厚生文教委員会発議で議会で決められた条例であります。ぜひ追加をしていただけないかと思えます。

2番目に、8ページ、ライフステージは3区分でよいのかであります。

私も何区分にするのがよいかというのはなかなか返事ができませんが、就学前あるいは現在では65歳以上でも就労しておられる方もたくさんお見えになりますので、そういうあたりはいかがでしょうか。

11ページ、高齢化率の推移のところで、高齢化率についてお尋ねをさせていただきます。

これは、後段の備前市子ども・子育て支援事業計画の高齢化率とこの本計画での高齢化率の率

が違っております。備前市の保健福祉部の中での担当課の高齢化率が違うのはいかなものかと、備前市の公式な保健福祉部が認識している高齢化率をどこに置くのかということで整合性を持たせておくことが必要ではないかと思えます。

それから、各ページの表の比較年度の相違があります。国調ベースと他のベースのそれぞれ何を取るのかということで違ってはくると思うんですが、統一できるところは統一しておいたほうがいいのではないかと。

5番目に、7ページで備前市におけるソーシャルキャピタルというのが重視されています。これは近年話題になっています社会資本と呼ばれるものでありますが、備前市においてこういったソーシャルキャピタルが重視されてくるのか、お聞かせ願いたいと思えます。

**○高橋保健課長** それでは、1つずつ順番に答えさせていただきます。

まず、2ページの表に備前市健康づくり推進条例を追加できないかということでございますが、この条例は令和2年6月に市民の健康づくりに関して市民や市関係者のそれぞれの役割や責務について定めているものでございます。この計画の理念等と合致しているところもあり、ぜひこの推進条例を追加したいと思っております。2月21日に、最終の策定委員会がございますので、そちらに提案させていただこうと思えます。

次に2点目、8ページのライフステージが3区分でいいのかという、もっと細かく分けるべきではないかという趣旨だと思いますが、まずこのライフステージは今回第3次の計画になります。第1次の計画を立てた際は次世代は就学前の乳幼児期と就学後の学童思春期に分かれておりました。また、成人期も、中年になる青壮年期と40歳から64歳までの中年期ということで2つに分かれておりました。あわせて第1次の計画では、5分類でライフステージを区切っておりました。評価、課題等の検討を進めていく中で、それぞれの課題が同じであるということ、また取組自体はやはり早いライフステージからする必要があるのではないかという協議に至りまして、第2次の計画から未成年に対しては次世代ということで統一し成年に関しては20歳から64歳までを成人期、65歳以上を高齢期として分類をしております。3次の計画につきましても、課題の内容、それから今後の取組においては引き続き3分類とするほうが市民には理解がしやすいのではないかとということで、各取組に関しては細かく中では分けておりますが、ライフステージは3分類でいこうと協議をされて、そのまま2次計画から引き続いておるといった内容です。

次に、3点目の11ページの図の3、4の高齢化率についてのことになりますが、この10ページ、11ページの人口等の推計は国勢調査のデータを基につくっております。11ページの図の3の4に関しましては、国勢調査以降の直近5年間の高齢化率の上昇が備前市の場合、少子・高齢化の急速な進展により国や県と比較して非常に大きい、いわゆる早く高齢化が想定よりも進んでいるということを示したいがために総務省の住民基本台帳に基づく人口のグラフ、折れ線グラフを追加してここに掲載をさせていただきましたが、出典元が違うということで国勢調査では2

020年の統計で高齢化率が39.7%になるにもかかわらず、住民基本台帳で見ますと2023年度のデータが同じ39.7%と、たまたまですが同じ数字になっておりますので、これはちょっと誤解を招くかなということもありますので、この総務省の折れ線グラフを削除し急速な高齢化が進展しているということは図ではなく文章で書き加える方向に検討してまいりたいと思っております。

また、こどもまんなか課が作成しているこども計画と同じ国勢調査の出典であります。数字が違うというのに関しましてはこの後、こどもまんなか課より訂正の発言があると思っておりますので、同じ国勢調査からの出典に統一するという事で御理解いただきたいと思っております。

それから、4点目で、各ページの表の比較年度がばらばらであるということで統一してはどうかということですが、各年度のいつから始まっているかというのは2次の計画のグラフの終期の後、3次の計画の始期を始めておりますので、2次の計画から各データが引き続いているという形で御理解をいただきたいと思っております。それから、5年度であったり6年度分を出していたり項目につきましても少しばらばらのところはあるんですが、事務局としましては現時点で出典先の最新のデータが分かるものであれば項目を1つ増やしてでも新しい直近の年度をつけたほうがいいかなということで記載をしている状況です。これも少し策定委員会で話し合いをし、見直しをしたいと思います。

最後、5点目の7ページ、備前市におけるソーシャルキャピタルとはという御質問ですが、委員御存じのとおりソーシャルキャピタルとは人と人とのつながりを表すもので地域や社会における人々の信頼関係や結びつきを示す概念です。備前市における代表的なソーシャルキャピタルとは何かと申されますと、まさしくこの健康づくり推進協議会、この計画を策定した策定委員の所属団体が備前市の代表的なソーシャルキャピタルだと私は思っております。

138ページに、健康づくり推進協議会の委員の名簿を出させてもらっています。例えば地域では医師会、それから栄養委員会、歯科医師会、大学、自治会、民生委員会、愛育委員会、老人クラブ、地元企業の職域団体、それから青年会議所、JA、漁協、ボランティア団体、NPO団体、校長会、養護部会、給食部会、あと保育協議会、この策定会議のメンバーが備前市で代表的なソーシャルキャピタルかなと思っております。各期ごとにライフステージごとに関わる組織とか団体が様々ありますが、計画を推進していくためには地域の組織や団体と協働していきたいということでここでソーシャルキャピタルという言葉を使って推進のための言葉としております。

○青山副委員長 説明をしていただきました。

それでは、委員長にお返しします。

〔委員長交代〕

○中西委員長 それでは、引き続き委員長の職を遂行します。

質疑のある方お見えになられましたら発言を許可いたします。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

あと第3期子ども・子育て支援事業についてを議題といたします。

それでは、質疑を希望いたしますので、委員長の職を副委員長にお願いをいたします。

〔委員長交代〕

○青山副委員長 それでは、委員長より事前通告の一括質問をお願いします。

○中西委員長 10点ほどありまして、1つは各ページの表の比較年度の相違の問題です。

国調ベースと他のベース、統一ができるものであれば統一でしたほうがいいのではないかと。

2点目は、こども園あるいは等の待機児童の数を掲載すべきではないか。ただ、先ほどの委員会では現在は待機児童がないということでしたのでということです。

3番目は、14ページ、小学校の状況の説明の中で、ここの表についての棒グラフとの色分けの説明が必要ではないでしょうか。

19ページ、ここは教育保育の利用状況、利用している教育保育事業及び今年度の利用規模というところであるんですが、もしできるとすればここで1つ段落を設けることができないかどうか、全体との関係がありますので、できなければやむを得ないかなと思いますけども。

21ページ、保育料無料化に関する意識の状況ですけども、この評価はやはり例えば備前市の保育料無償化は子育て支援の充実につながっていると思うかと、つながっているとは思わないというのが3.7%、どちらでもないというのが5.4%と、ちょっとここでこういうことが出てくるのが奇異に感じますので、この評価はいかがなんでしょうか。

27ページ、就学前と小学生の比較ではなく、前回の計画との比較のほうがよいのではないのでしょうか。

あと障害児の発達相談支援センターは考えないのか。それから、児童館のようなものは考えないのか。あと男女の子供の比率はどうなのか。

あと備前市は今年、今年度から図書館の建設を始めているわけです。そういう意味では子供たちの本に触れる、親子での読み聞かせを含めて幼少期からの活字に触れていく問題、そういった図書館建設をやっているということも含めて、この活字離れを抑えていくということは必要ではないでしょうか。

全国の学力テストでも、備前市の問題は読解力にあるんだということがこれまでも言われていますけども、その点ではやっぱり幼少期からの本に親しみ活字を読んでいくということが大切ではないか、そういうような観点も入れることができないかどうか、お尋ねをさせていただきたいと思います。

○竹林こどもまんなか課長 それでは、御質問に対しまして順次お答えをいたします。

まず、各ページの表の比較年度、違いがあるのではということでございますが、6ページ以降、統計から見る備前市の状況ということで記載しておりますところにつきましては、基本的に国勢調査のベースで記載しております。1点、人口動態につきましては出生とか死亡とか転入転出の件数につきましては、国勢調査では把握ができないところについて各年分の県の毎月流動人口

調査の年報というところから引用しとる関係で年度がずれております。それ以外につきましては、おおむね実績に基づくものにつきましては市で把握できるものは各年度、過去5年間、前計画、第2期の計画の期間であります令和2年度から6年度というようなことで記載しておりますので、どこかに統一というのであればいいんですけども、統計データの引用先の年度によってということで若干ばらつきがあるということになっております。

それから、待機児童数を記載すべきではということですが、令和6年4月時点では待機児童が解消しておるというところから計画上では42ページ、43ページのあたりでの取組としまして特定教育・保育施設等の環境整備というところで記載しておりますが、保育士確保等の取組の結果、現状では待機児童解消しており引き続き保育士不足を招かないよう対策を講じることとしております。

続いて、14ページあたりのグラフの色分けが説明が必要ではないかということですが、14ページの小学校の状況と15ページ中学校の状況の棒グラフのところで判例が記載漏れになっておりましたので、市立学校の生徒数と市立学校以外の生徒数ということで分かるように凡例を追加したいと考えております。

それから、19ページのところでページまたいでいるということですが、20ページのグラフが大きいもので、いずれにしても1ページに収まらないということからページの割り振りで現状としておりますので御理解いただけたらと思います。

それから、21ページの保育料の無償化に関する意識の状況ということで評価を言われたかと思いますが、子育て支援の充実につながっていると思うかというところですが、私どもとしましては、つながっていると思うところが9割を超えているというところを肯定的に捉えているところでございます。

それから、27ページでございますが、子育てのしやすさのところでは就学前と小学生の比較ではなく前回との比較のほうがよいのではということですが、前提としましては今回のアンケート調査の集計というのがまず第一でございますので、そういったところで作っておりますので、項目によりましては参考としまして前回調査も記載しまして比較可能なようにしておりますので、これも御理解いただけたらと思います。

それから、障害児発達相談支援センターというものでお聞きしておりますが、センターの設置そのものについての記載は計画上何もございませんが、例えば47ページ等で記載しております児童相談というところで対応することとしておりますので、内容としては含んでおるものと考えております。

それから、図書館の活用ということですが、

項目としましては、新図書館のことを直接言及しているところはございません。また、図書館そのものを活用するという記載は現状としてはございませんので、44ページになりますが、子供の成長を支援する環境の充実といった項目の中で若干触れるように調整したいと考えており

ます。

それから、児童館が必要ではないかということでございますが、児童館のようなハード整備については検討しておりませんが、民間団体などとの連携によります放課後の居場所づくりとか、そういったソフト面で児童の健全育成が図られればよいと考えております。

それから、男女の比率についての質問でございますが、男女の違いで子ども・子育て支援事業の内容が変わるものではございませんので、比率については特に気にしてないというのが現状でございます。

ただ、14ページ、15ページで小学校、中学校における男女別の人数については記載もございますので、参考にしていただけたらと思います。

ただ、現場での対応としましては当然年齢とか性別によって変わってきますので、そこは現場対応での話として計画として記載は特にしていないということでございます。

○中西委員長 うっかり1点落としてしまして、第3次健康びぜん21、備前市食育推進計画、第2次備前市自殺対策計画とこの事業計画を比較をして先ほど前の計画のときに指摘をさせていただきましたけども、7ページの年齢別人口の推移、令和2年度の高齢化率がこの計画では40.3%となっております。前の計画では39.7なんで保健福祉部の公式の見解としてはどちらかに数字は統一しておくべきではないかと思っておりますので、その高齢化率のところをどうされるのか、お聞かせ願いたいと思っております。

○竹林こどもまんなか課長 7ページ、年齢別人口の推移のところでは令和2年の65歳以上人口の数字の訂正をさせていただけたらと思います。

40.3とありますのは39.7の誤りでございましたので、計画案としましては修正をしたと考えております。

○青山副委員長 それでは、答弁終わりましたので、委員長にお返しします。

〔委員長交代〕

○中西委員長 それでは、委員長の職務を遂行します。

質疑を希望される委員の発言を許可いたします。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

以上で健康管理、子育て支援についての調査研究を終了いたします。

保健福祉部の説明員の方は御退室いただいて結構です。ありがとうございました。

次に、病院事業につきまして調査研究を行います。

もう間もなく病院事業会計の当初予算書も発送されるわけですが、今年度の経営状況も鑑みて当初予算の編成に当たられたことと思っております。現在の経営状況について簡単に御説明をお願いいたします。

○藤澤病院総括事務長 現在の経営状況ということで、令和5年度につきまして9月の議会でも資料提出させていただきましたけれども、備前市の病院事業全体として約1億1,400万円の

純損失を計上しております。日生病院以外の病院施設におきましては赤字となりました。令和6年度につきましても、やはり同じく厳しい状態が続いております。外来の患者さんの数は、減少がやはり一番大きいです。従来的人口減少の傾向に加えまして、コロナ禍以降の受診控え等も影響していると思われます。吉永病院について言えば11月まで前年度より少なかったんですが、12月、1月とやはりインフルエンザの患者さん等が多かったということもあり、多少昨年度の外来患者数を上回っている部分もございます。

ただ、今インフルエンザの患者さんも少なくなっておりますし、今後1月、2月、3月というのをまた集計で見ていったときにどうなっているかというのは今のところ予測が難しいところがあります。

入院患者数については、各病院とも昨年を今のところは上回ってきておりますが、物価高騰など、そういう影響があつて収益が増える以上に費用が増大している状況であります。経営状況につきましても、さらに厳しさを増している状況で、現在のところまだ1月、2月、3月の四半期の決算を残しておりますので予測というのは難しいですが、昨年より厳しい赤字になってしまうのではないかと考えております。

○中西委員長 概略報告があつたわけですが、皆さんのほうから何か質疑はございますでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

それじゃ、ないようでしたら以上で病院事業についての調査研究を終了いたします。

説明員入替えのため、暫時休憩いたします。

午前11時15分 休憩

午前11時25分 再開

○中西委員長 休憩前に引き続き委員会を再開いたします。

次に、教育行政についての調査研究を行うということで、委員長の私より公共下水道未接続の教育施設、施設の老朽化について、スポットクーラーの設置状況なんかも調査いたしたく招集案件とさせていただきます。それぞれ詳しく御説明をお願いいたします。

資料はないのかな。

○杉田教育総務課長 資料なしで説明させていただきます。

まず、公共下水道の未接続の教育施設についてですが、現時点で公共下水道整備区域内における下水道未接続の教育施設につきましては伊里中学校、伊里小学校、伊里共同調理場、伊里認定こども園が該当します。現状は、合併浄化槽による汚水処理を継続しておりますが、今後公共下水道未接続の状態の解消に向けて取り組んでまいりたいと思っております。

続いて、施設の老朽化についてですが、スポットクーラーの設置についてであります。令和6年度の国の補正予算による補助金申請を予定していることに伴い予算も繰越しを予定しております。今後の見込みといたしましては、夏休みをめぐりに整備ができるよう努めてまいります。

次に、教育施設の老朽化、トイレやエアコンの設置状況につきましてですが、トイレにつきましてはこれまで和式便器から洋式便器への更新を行っておりまして、校舎につきましては今年度末までには普通教室棟のトイレについては小・中学校ともに全て洋式化される見込みです。

次に、エアコンの設置状況についてですが、普通教室は小・中学校ともに100%、特別教室については小学校では図書室、理科室などで100%整備済みであります。中学校では、未整備の家庭科室、美術室、技術室がございますので、こちらの整備にも取り組んでまいります。

**○立川委員** 公共下水道未接続の教育施設ということで、今伊里の小・中、共同調理場、こども園で遅れている理由というんですか、合併浄化槽で対応しているからしないということなんですか。

**○杉田教育総務課長** こちらの地区につきましては、令和3年4月1日に公共下水道の供用が開始されております。その後、令和4年度につきましては6月の補正予算で伊里中学校の排水設備の改修工事費を認めていただいております。ですが、その時点では小中一貫校の整備等の検討に伴いまして執行を保留したままになっております。その後、取組はできておりませんので、今後進めてまいりたいというところでございます。

**○立川委員** 方向性とすれば小・中、共同調理場、こども園、全て公共下水道につながるということで進めるという解釈してよろしいんですか。

**○杉田教育総務課長** 担当課としては、そのように進めてまいりたいと考えております。

**○立川委員** 大体どの年度ぐらいをめどに全面接続ができるように頑張っていただけるのでしょうか。

**○杉田教育総務課長** 経費的な問題もございますので、順次という形になるかと思いますが、年度についてはここで申し上げるのは難しいかと思っております。

**○立川委員** 計画ができましたら、またお知らせいただけたらと思っております。

**○守井委員** 合併浄化槽でやられているということは合併浄化槽から本管までの間の機構変更だけなんで割と簡単にできると思うんです。場内の設備とか、そういうものはほとんど使いますから、だから大きなお金がかからんんじゃないかなと思うんで、できるだけ合併浄化槽で放流しているわけですから機能的には変わらないんですけど、水質の改善とか、そういう面だけだろうと思っておりますので、供用開始された下水道区域であればできるだけ水洗率を上げるためにも協力してやっていただけたらなと思っております。

スポットクーラーの話で、令和6年度の国の補助金の関係があるからということなんですけども、令和6年で採択されるような補助申請をされておるんですか。見込みはどんなんですか。6年度ももう僅かになっているじゃないですか。だから、6年度申請されても、それが交付決定されるが2月だとしても工事をするといっても、これ物を買うだけかもしれませんけど、たくさんものがあるのであれば。

**○春森総合教育部次長** 新しい制度で、もともと補助金があったんですが新しく国が能登半島の

地震を受けて起債をつくった形で事業を遅らせた状況でございます。それが先日1月ぐらいに判明しましたので、その申請をしたところでございます。当初の補正予算で計上しておりました金額のおよそ半分ぐらいが補助対象になるのではないかと見込んでおりますが、またその残りの半分に対して起債が当てられて、その分のうちの半分がまた返ってくる形のイメージで今想定した事業として進めておるところです。結果としては、こういった内示があつてからの入札とかになりますので、実際は今後予定よりちょっと遅れる形になりますが、今までの1億円の予算全部市で持つのではなくて、財源が入った形でやりたいと思いますので繰越しする予定で進めておりますので御理解いただけたらと思います。

○守井委員 国の補助金を利用するのは大変結構だろうと思いますが、一応国も6年度の中身の中で決定されるということになるのでしょうか。

○春森総合教育部次長 国の6年度の補正予算事業で今要求しております。7年度分ではなくてしておりますので、内定までは出ておるといふ形になっております。

○奥道委員 先ほど家庭科室、技術室のところはまだ未整備と、整備のめどはどんな感じなんですか。

○杉田教育総務課長 新年度予算でお願いしたいと考えております。

○奥道委員 要するに令和8年までには決着がつくと判断すればいいですか。もちろん予算が通ればの話なんですけど。

○杉田教育総務課長 担当課としては、そのように考えております。

○奥道委員 普通教室は100%だと、残っていたのが家庭科、技術室だけだけど、ほかのところはもうほぼ100%と判断していいですか。

○杉田教育総務課長 全ての教室といいますか、部屋のほうがエアコンがついているというわけではございません。いわゆる普通教室とか、さっきも申し上げました特別教室等については100%ということで目指しております。

○奥道委員 要するに特別教室というか、例えば視聴覚であつたり、当然ここらで必要になってくるわけなんですけど、理科室なんかエアコンないといろいろありますね。それから、美術室、音楽室、ここらもう大丈夫だということによろしいんですね。結構です。

○中西委員長 そういうのはどうなっているのかというのはやっぱり委員会にもきちんと報告をしていただきたいと思います。さっき杉田教育総務課長も中学のエアコンには当初の予算に盛り込みたいということで今日の当初の予算の一覧表には入ってませんので、なるべくそういうのを入れていただきたいと思います。

ほかにはございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようでしたら、以上で教育行政についての調査研究を終了いたします。

総合教育部の説明員の方は御退出していただいて結構でございます。

\*\*\*\*\* 委員派遣 \*\*\*\*\*

次に、委員派遣について御提案申し上げます。

日生中学校のグラウンドについては、水はけ問題等度々議論になっております。いろんな日生の行事でもこのグラウンドは使用してはありますが、つきましては2月定例会中の文教委員会開催日3月7日金曜の午後1時半より現地視察を行いたいと考えております。

午前中は議案審査、所管事務調査を本会議場で行い、午後を現地視察したいと思います。つきましては、閉会中の継続調査事件の調査を行うため議長に対して委員派遣の要求を行いたと思いますが、皆さんよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、派遣委員については本委員を対象とし、実施日については令和7年3月7日金曜、派遣先については備前市立日生中学校、調査事項については教育行政についての調査研究ということで委員派遣に関する手続につきましては委員長に御一任願いたいと思いますが、これに異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

御異議なしと認め、そのように決定いたしました。

最後に、先日実施のさいたま市立大宮国際中等教育学校並びに茅ヶ崎の視察につきまして報告書を御提出していただき、ありがとうございました。皆さんの報告書の中から少しずつつかいつまんで2月定例会の最終日に私より議場において視察報告を行いますので、御承知おきください。

以上で本日の厚生文教委員会を終了いたします。

皆さん、どうもお疲れさまでした。

午前11時38分 閉会